

まわり  
曲川町  
ちよう

## 曲川池に縄文晩期遺跡

市の西部を南から北へ流れて来た曾我川が市の中央部で高取川を合流して、その流れを北西へ大きく湾曲させる西側に曲川（まわりがわ）の町が位置しています。どうやら「川が大きく曲がるところ」から、この町名が生まれたようです。

日本書紀に「安閑天皇の勾（まがり）金橋宮があった」との記録があり、永仁二（一二九四）年の東大寺大仏灯油料田記録に「勾河」とあるほか、その後も長年にわたり多数の古文書に「勾川」「曲金」などと書き残されています。従いまして「曲川」の地名が鎌倉時代の早い時期、すでに定着していたものと考えられています。

戦後間もないころ、町の西南にある曲川池の土砂を採取したとき、多量の土器が出土した。昭和五四年に行われた曲川池西側の発掘調査で、縄文時代晩期の墓四基と土器や土偶（どぐう＝土人形）が出土しています。古くから人の営みがあった証明です。

江戸時代に曲川村と呼ばれた当地は、明治二二年の町村合併で新設された金橋村の大字になり、昭和三一年の檀原市の発足に当たって曲川町となりました。